

なるほどのっ



学校教育担当  
キャラクター  
甲斐善之助

# 西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

2月号



## 【小学校 算数科】

全ての子どもが「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを目指して

## 【中学校 数学科】

数学訪問から考える授業づくり

Welcome to our school!(島根大学との連携事業)

～7人の留学生と米子市立湊山中学校3年生との交流授業～

11月28日(金)に、「子どもが伸びる授業づくりプロジェクト(小学校算数)」公開授業及び研究会が、米子市立福米東小学校で開催されました。研究会の中で、2年間の研究の取組を御発表いただきましたので、その一部を御紹介します。



## 研究の柱1

育成する資質・能力や「数学的な見方・考え方」を明確にして単元を構想する。

米子市教育委員会作成の「授業づくりシート」を活用し、**本時で身に付けたい資質・能力や数学的な見方・考え方**について、授業者自身が意識して取り組めるようにしました。

また、シートの中に「**適用題**」の欄を設け、児童一人一人が本時で身に付けた力で取り組む問題についても再考しました。



研究主任



- ★全ての子どもに学びが成立しているか
- ★今考えるべき問いが子どもたちに明確になっているか
- ★それは子どもたちにとって考えたい問いか



めあては子どもたちの中にある  
「問い」をもとにする

「～の方法を考えよう」 「～するにはどうしたらいいだろう」

行動が目標



課題との出会いの中で生まれた「問い」を  
めあてにつなげる

## 研究の柱2

児童一人一人の学習状況の見取りに基づき、適切な指導や支援の工夫・充実を図る。

【講師 明星小学校 笠井 健一 氏 指導助言内容より】

子ども全員が「わかる」「できる」ために、先生は教材研究し、目の前の子どもたちの実態もふまえて、焦点化しながら授業をつくっていきましょう。先生方御自身の経験年数等もふまえながら、①②③それぞれ目指すところを定め、取り組んでみましょう。



- ① **まず先生が、分かりやすく説明できること。**
- ②-1 **つまずいている子ども、困っている子どもを見つけること。**
- ②-2 **困っている子どもが何に困っているのか、教材研究に基づいて理解できること。**
- ②-3 **そのことに基づき、何をしたら子どもはできるようになるのかを知っていて、実践できること。**
- ③-1 **子どもの不十分な説明に対して、困っている子どもなら分からないであろうことが分かって、その立場に立って質問すること。**
- ③-2 **そのことを通して、分かりやすい説明とは、どういう説明なのか、クラス全員が分かること。**



第1学年「ひきざん(2)」

2. ブロックを使って解法を考える。(個)

Cの児童の様相の想定で終わるのではなく、どうしてそのような様相に至るのかという**困っていることの「もと」を想定し、支援を考えました。**  
指導案上では、展開前半の自力解決場面に、児童の様相と支援の具体を記載しました。

- め動かす数が違う。(C3→B)
- C4 問題文の意図が理解できておらず、ブロック操作ができていない。(C4→B)
- C5 ブロックから9引くことはできているが、一つづつ引く、数え引く方法をしている。(C5・C6→B)
- C6 13から3引いて、残りの6を引く、減減法をしている。(C5・C6→B)
- B 10のまとまりを作ってから9を引き、1と残りの3を足す、減加法をしている。(B→A)
- A 数え引く方法、減減法、減加法の中から、なぜ減加法で解いたのか自分の考えをもっている。(B→A)